



毎月1回1日発行
 発行 公益社団法人 全国防災協会

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町3-11
 (パインランド日本橋ビル5F)

電話 03(6661)9730 FAX 03(6661)9733

発行責任者 曾田 進 印刷所 (株)白 橋



出水状況



被災状況

平成25年9月 台風18号による被災 (国道422号 三重県伊賀市下神戸)

目 次

平成25年7月28日の豪雨により被害のあった島根県、山口県において
 改良復旧事業を実施します……………国土交通省水管理・国土保全局防災課… 2
 2013年(平成25年)の日本の天候……………気象庁…10
 2013年(平成25年)の世界と日本の年平均気温(速報)……………気象庁…13
 「第29回防災ポスターコンクール」審査結果と表彰式について
 ……………内閣府(防災担当)…15
 各県コーナー 「岡山県」……………岡山県土木部防災砂防課防災班…17
 防災課だより 人事異動……………22
 会員だより 「災害復旧に携わって～(三重県の紹介～)」
 ……………三重県県土整備部施設災害対策課 主査 細渕 敏史…23

平成25年7月28日の豪雨により被害のあった 島根県、山口県において改良復旧事業を実施します

国土交通省水管理・国土保全局防災課

平成25年7月28日の豪雨によって、島根県津和野町の津和野川及び名賀川では、護岸決壊や河道埋塞により65戸の家屋浸水が発生したほか、JR山口線や県道の流出等甚大な被害が発生しました。

山口県でも、萩市の田万川、支川の原中川及び大江後川、須佐川及び支川の唐津川、山口市の阿武川で破堤や護岸の決壊により家屋浸水や道路、JR山

口線の流出等の甚大な被害が発生しました。

被災箇所の復旧に当たっては、同様の洪水が発生しても再度災害を受けることがないように、改良復旧事業(災害復旧助成事業、災害関連事業)を行います。

国土交通省では、本事業を積極的に支援してまいります。



【島根県】

H25災 津和野川 河川災害復旧助成事業 (島根県鹿足郡津和野町)

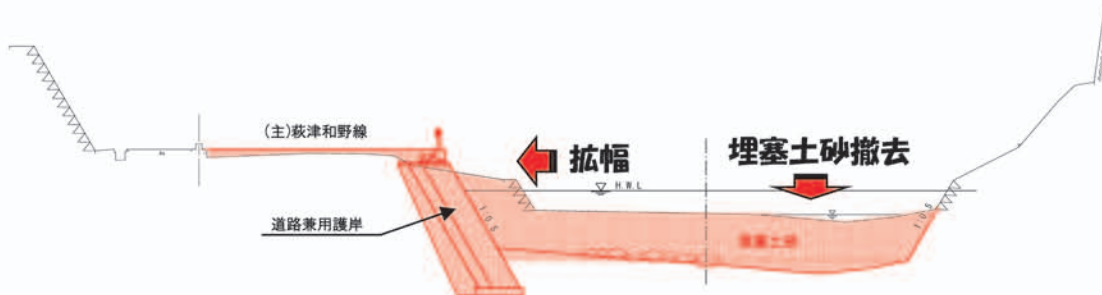
【概要】

平成25年7月28日の降雨は、島根県西部の鹿足郡津和野町（気象庁津和野雨量観測所）にて24時間最大雨量381mm、1時間最大雨量91mmを観測する豪雨となり、津和野町内を流れる津和野川及び支川の名賀川では、発生した土石流により1名が行方不明となった他、護岸欠壊や河道埋塞により溢水し65戸の家屋浸水、JR山口線や主要地方道萩津和野線の流失等、甚大な被害が発生しました。

災害復旧事業による原形復旧のみでは再度災害が発生する恐れがあることから、河川災害復旧助成事業を活用し、今回の豪雨と同程度の洪水を安全に流せるよう、被災箇所を含む一定区間において川幅を広げるなどの河川改修工事を実施します。

【事業内容】

- 事業主体：島根県
- 事業箇所：鹿足郡 津和野町 鷺原～名賀地内
- 河川名：一級河川津和野川（高津川水系）
- 事業期間：平成25年度～平成28年度
- 延長：L=8.9km
- 事業費：47.4億円（内改良費 26.5億円）
- 工事概要：河道拡幅、埋塞土砂撤去、護岸工



H25災 田万川 災害復旧助成事業(山口県萩市)

やまぐちけん
【山口県】

【概要】

7月28日の豪雨により、田万川水系田万川(萩市中小川)では甚大な浸水被害(床上59戸、床下11戸)が発生した。災害復旧事業による原形復旧のみでは、浸水被害の解消が図られないことから、災害復旧助成事業により、河道の拡幅や埋塞土砂の撤去等を行うことで、再度災害の防止を図る。



【事業内容】

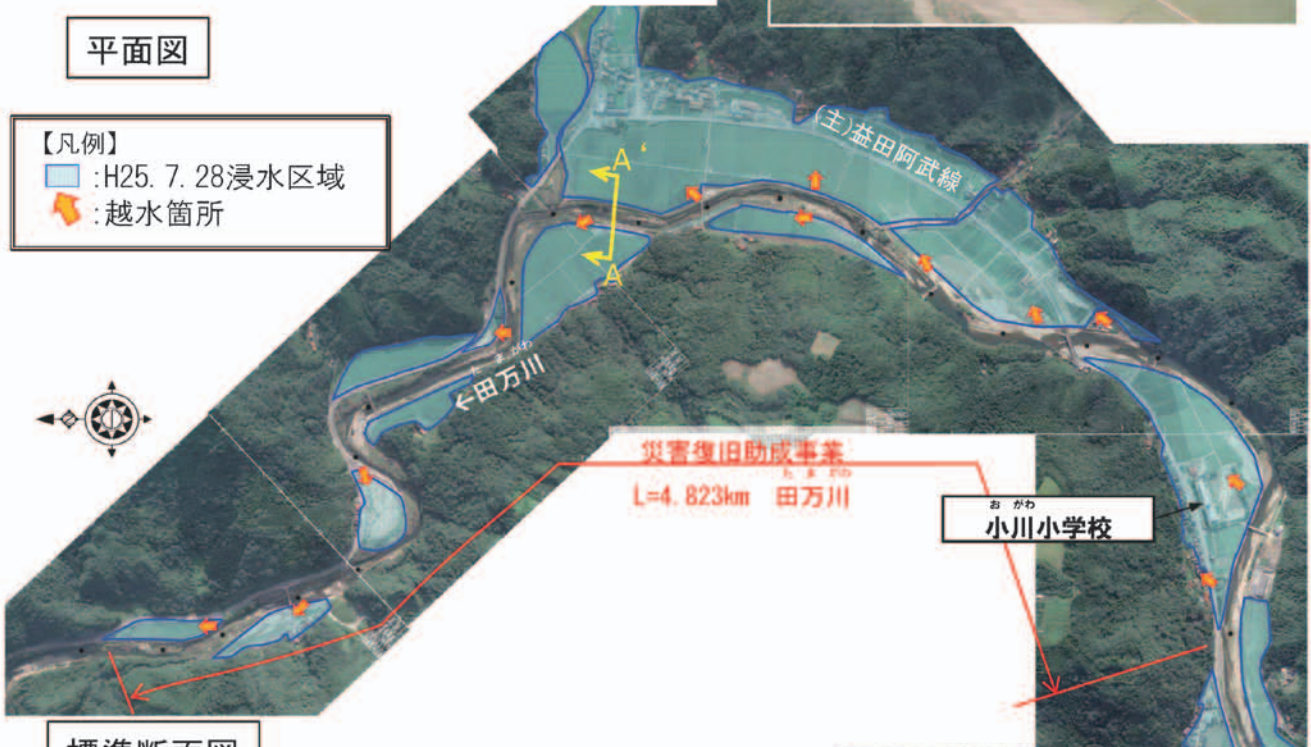
- 事業主体：山口県
- 事業箇所：萩市中小川
- 河川名：二級河川田万川水系田万川
- 事業期間：平成25年度～平成28年度
- 事業費：42.9億円(うち改良費20.1億円)
- 延長：4.8km



平面図

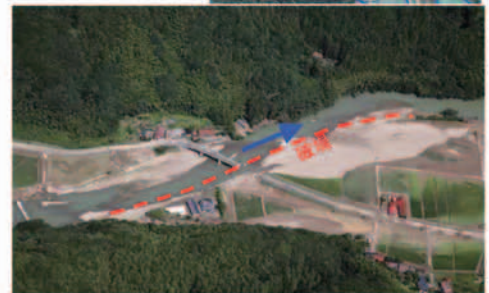
【凡例】

- : H25. 7. 28浸水区域
- ▲ : 越水箇所



標準断面図

田万川(助成区間):標準横断面(A-A'断面)



H25 災 原中川・大江後川 災害関連事業(山口県萩市)

やまぐちけん
【山口県】

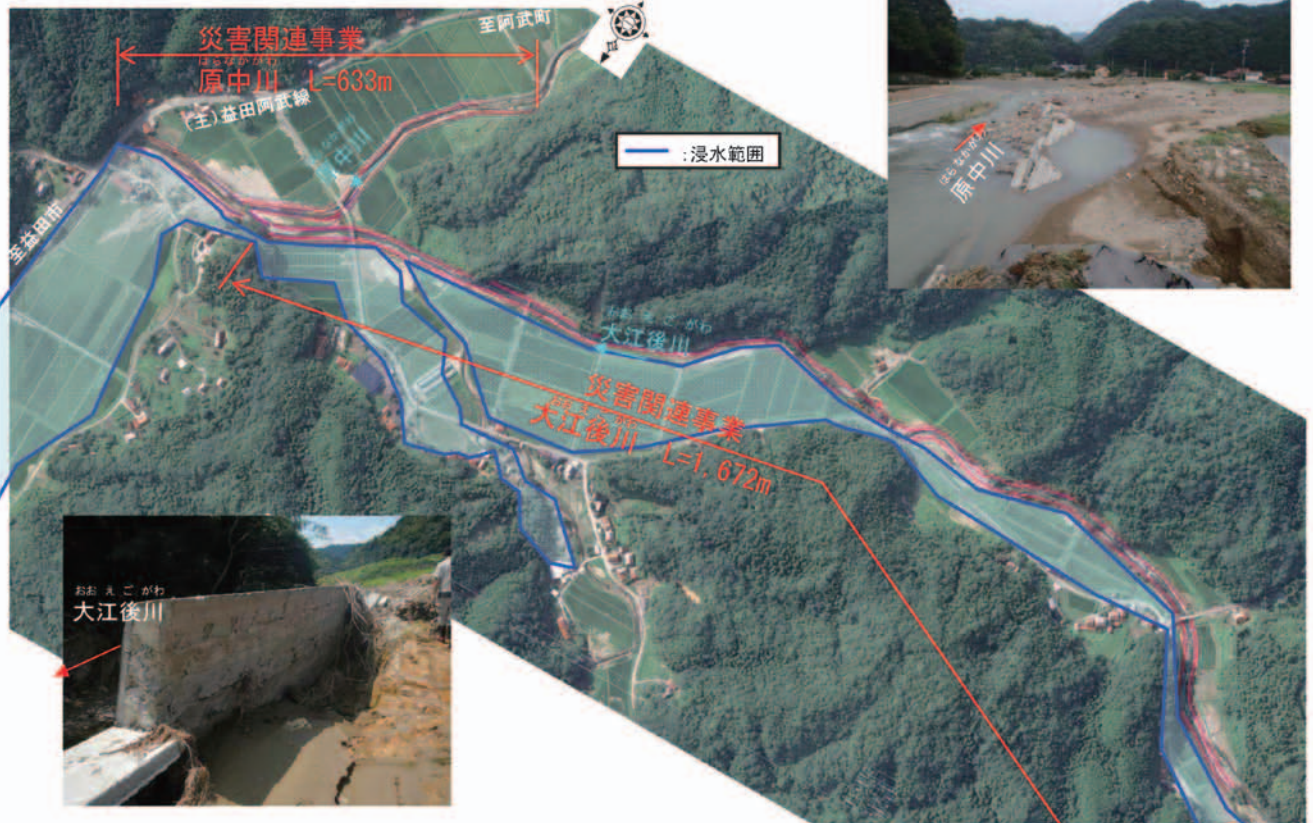
【概要】

7月28日の豪雨により、田万川水系原中川及び大江後川(萩市上小川東分)では甚大な浸水被害(床上55戸、床下3戸)が発生した。災害復旧事業による原形復旧のみでは、浸水被害の解消が図られないことから、災害関連事業により、河道の拡幅や埋塞土砂の撤去等を行うことで、再度災害の防止を図る。

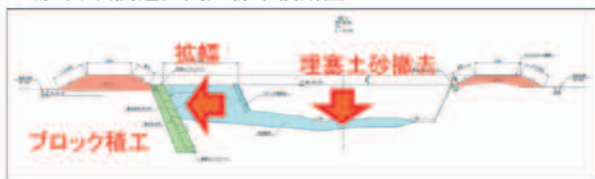


【事業内容】

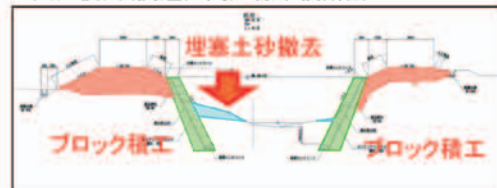
- 事業主体：山口県
- 事業箇所：萩市上小川東分
- 河川名：二級河川田万川水系原中川、大江後川
- 事業期間：平成25年度～平成27年度
- 事業費：5.9億円(うち改良費2.7億円)
- 延長：原中川0.6km、大江後川1.7km



原中川(関連区間):標準横断面図



大江後川(関連区間):標準横断面図



H25災 須佐川・唐津川 災害関連事業(山口県萩市)

やまぐちけん
【山口県】

【概要】

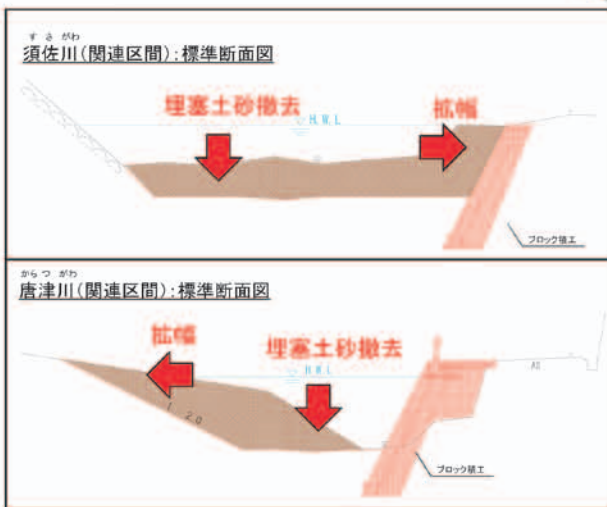
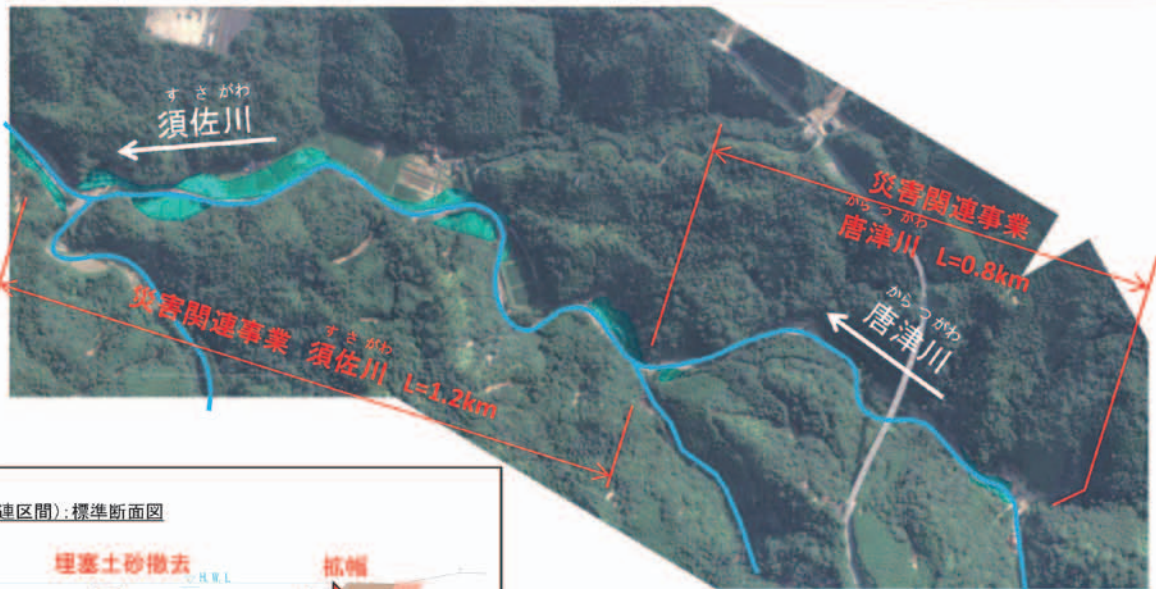
7月28日の豪雨により、須佐川水系須佐川及び唐津川(萩市須佐)では甚大な浸水被害(床上349戸、床下128戸)が発生した。

災害復旧事業による原形復旧のみでは、浸水被害の解消が図られないことから、災害関連事業により、河道の拡幅や埋塞土砂の撤去等を行うことで、再度災害の防止を図る。



【事業内容】

- 事業主体：山口県
- 事業箇所：萩市須佐
- 河川名：二級河川須佐川水系須佐川、唐津川
- 事業期間：平成25年度～平成27年度
- 事業費：4.4億円(うち改良費1.5億円)
- 延長：須佐川1.2km、唐津川0.8km



あぶがわ やまぐちけんやまぐちし
H 2 5 災 阿武川① 災害関連事業 (山口県山口市) 【山口県】

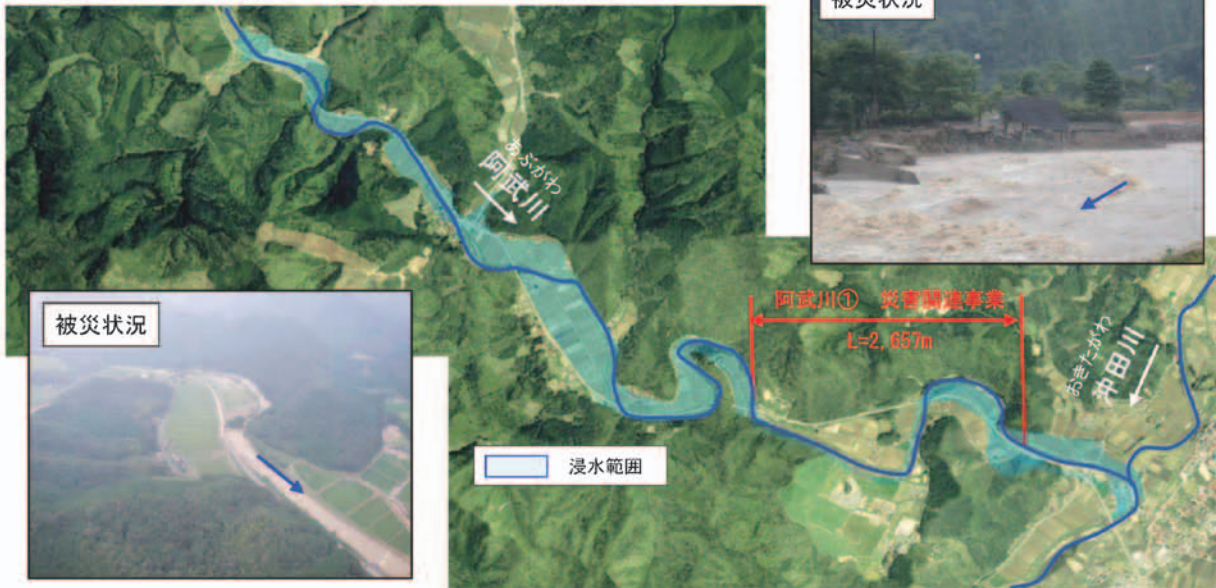
【概要】

7月28日の豪雨に伴う洪水により、阿武川水系阿武川(山口市阿東)では甚大な浸水被害(床上64戸、床下19戸)が発生した。災害復旧による原形復旧のみでは、浸水被害の解消が図られないことから、災害関連事業により、河道の拡幅や埋塞土砂の撤去等を行うことで、再度災害の防止を図る。

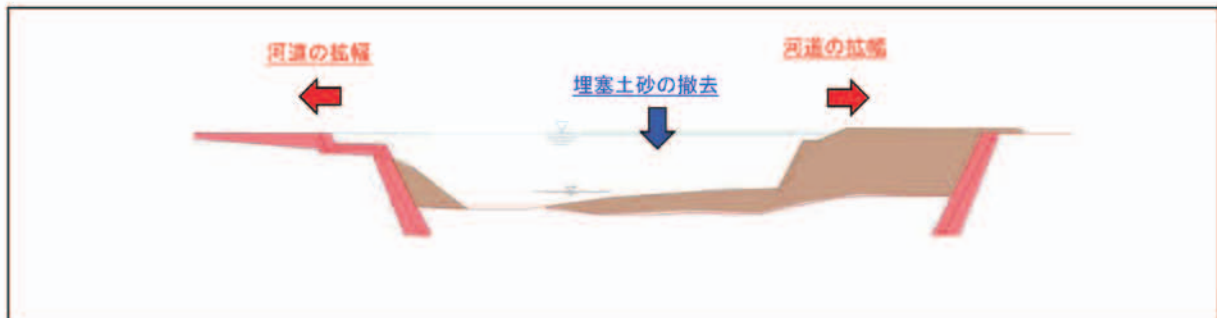


【事業内容】

- 事業主体：山口県
- 事業箇所：山口市阿東徳佐下
- 河川名：二級河川阿武川水系阿武川
- 事業期間：平成25年度～平成27年度
- 事業費：8.6億円(うち改良費4.0億円)
- 延長：2.7km



阿武川①(関連区間)標準断面図



あぶがわ やまぐちけんやまぐちし
H25災 阿武川② 災害関連事業（山口県山口市） 【山口県】

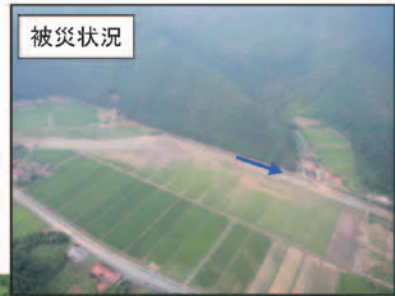
【概要】

7月28日の豪雨に伴う洪水により、阿武川水系阿武川（山口市阿東）では甚大な浸水被害（床上64戸、床下19戸）が発生した。災害復旧による原形復旧のみでは、浸水被害の解消が図られないことから、災害関連事業により、河道の拡幅や埋塞土砂の撤去等を行うことで、再度災害の防止を図る。

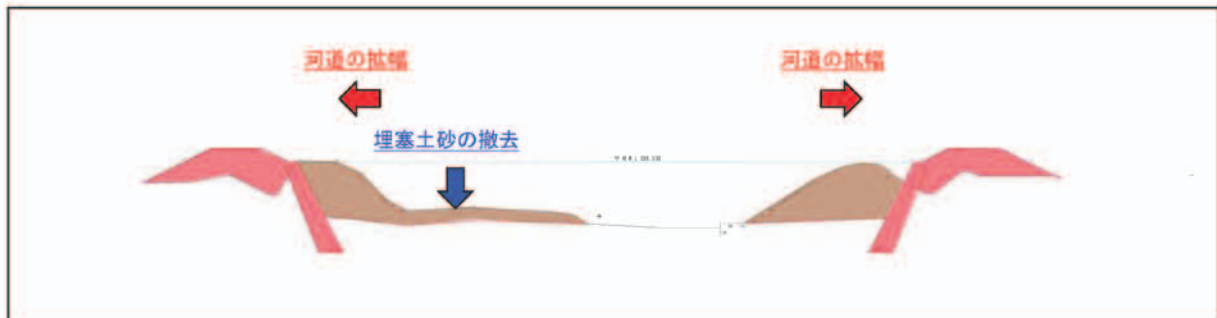


【事業内容】

- 事業主体：山口県
- 事業箇所：山口市阿東徳佐下
- 河川名：二級河川阿武川水系阿武川
- 事業期間：平成25年度～平成27年度
- 事業費：8.3億円（うち改良費4.0億円）
- 延長：2.2km



阿武川②（関連区間）標準断面図



改良復旧事業 (参考)

改良復旧事業とは、被災した河川施設の復旧とあわせて、築堤や河床の掘削等を行い、流下能力を拡大することで河川の氾濫を軽減する等、再度災害の防止と構造物の強化等を図るための事業。

河川の例 (被災)



河川の例 (単災)



河川の例 (事業イメージ)



道路の例 (被災)



道路の例 (単災)



道路の例 (事業イメージ)



橋梁の例 (被災)



橋梁の例 (単災)



橋梁の例 (事業イメージ)



河川の例 (被災)



河川の例 (単災)



河川の例 (事業イメージ)



海岸の例 (被災)



海岸の例 (単災)



海岸の例 (事業イメージ)



河川の例 (被災)



河川の例 (単災)



河川の例 (事業イメージ)



道路の例 (被災)



道路の例 (単災)



道路の例 (事業イメージ)



橋梁の例 (被災)



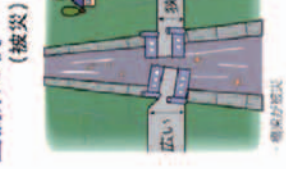
橋梁の例 (単災)



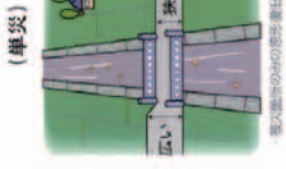
橋梁の例 (事業イメージ)



河川の例 (被災)



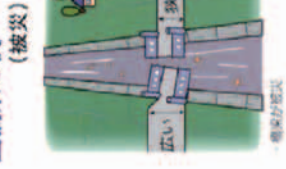
河川の例 (単災)



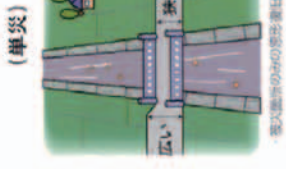
河川の例 (事業イメージ)



海岸の例 (被災)



海岸の例 (単災)



海岸の例 (事業イメージ)



河川の例 (被災)



河川の例 (単災)



河川の例 (事業イメージ)



海岸の例 (被災)



海岸の例 (単災)



海岸の例 (事業イメージ)



2013年（平成25年）の日本の天候

気象庁 HP より抜粋

2013年（平成25年）の天候の特徴は以下のとおりです。

○東日本、西日本、沖縄・奄美は高温・多照、北日本は多雨（雪）・寡照

春の後半から秋の前半にかけて全国的に高温傾向が続き、東・西日本と沖縄・奄美の年平均気温は高かった。冬から春の前半の低温が明瞭だった北日本では年平均気温は平年並だった。また、東・西日本と沖縄・奄美では、春から秋にかけて高気圧に覆われて晴れる日が多く、東・西日本の年間日照時間はかなり多く、沖縄・奄美は多かった。一方、一年を通じて低気圧や前線の影響を受けやすかった北日本では年間日照時間が少なく、年降水量は多く、特に日本海側でかなり多かった。

○北日本、東日本、西日本は寒冬

北日本を中心に冬型の気圧配置となる日が多く、周期的に強い寒気が南下したことから、北・東日本では2年連続、西日本では3年連続の寒冬となった。北日本日本海側の冬の降雪量は多く、

酸ヶ湯（青森県青森市）で積雪の深さが566cmを観測するなど、記録的な積雪となったところがあった。

○全国で暑夏、8月には熱波

太平洋高気圧の勢力が日本の南海上から西日本にかけて強かったことなどから、全国で暑夏となり、西日本では夏の平均気温平年差が+1.2℃と1946年の統計開始以来第1位の高温となった。特に、8月上旬後半から中旬にかけては東・西日本を中心に厳しい暑さに見舞われ、8月12日には、江川崎（高知県四万十市）で日最高気温が41.0℃となり歴代全国1位となった。

○各地で記録的な豪雨

7月から10月にかけては、太平洋高気圧の縁を回る湿った気流と梅雨前線の影響や、台風と秋雨前線の影響を受けて大雨に見舞われたところがあり、特に、島根県、山口県、秋田県、岩手県、京都府、滋賀県、福井県および大島（東京都）では記録的な豪雨を観測した。

1 概 況

全国的に、春の前半までは気温の低い時期と高い時期が交互に現れたのち、春の後半から秋の前半にかけては高温傾向が続き、顕著な高温の時期も見られた。秋の後半以降は西日本や沖縄・奄美を中心に低温となった。年平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で高く、冬から春の前半にかけての低温が明瞭だった北日本では平年並だった。春と秋を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多かった東・西日本では年間日照時間がかなり多く、年間日照時間の平年比は東日本太平洋側で112%となり1946年の統計開始

以来最も多い記録を上回り、西日本太平洋側では111%となって1994年と並んで1位タイの記録となった。一年を通じて低気圧や前線の影響を受けやすかった北日本では、年間日照時間が少なく、年降水量は多く、特に日本海側ではかなり多かった。また、夏以降、高気圧に覆われて晴れの日が多かった沖縄・奄美では、年間日照時間が多く、年降水量は少なかった。

冬は、北日本を中心に冬型の気圧配置となる日が多く、周期的に強い寒気が南下したため、北日本から西日本にかけて低温となり、日本海側では冬の降

水量が多く、日照時間は少なかった。一方、太平洋側では平年と同様に晴れの日が多かったが、低気圧の通過時にはまとまった雨または雪が降り、冬の降水量は多くなった。冬の降雪量が多かった北日本日本海側の一部では記録的な積雪となり、酸ヶ湯（青森県青森市）で積雪の深さが566cmとなるなど、アメダスも含めた12地点（春以降も含めれば16地点）で月最深積雪の大きい記録を更新した。沖縄・奄美では、2月には顕著な高温の時期があり、暖冬となった。

春は、4月中旬から5月上旬にかけて寒気の影響で全国的に低温となる一方、そのほかの時期は暖かい空気に覆われて、東・西日本を中心に高温となり、気温の変動が大きかった。東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、春の降水量は西日本でかなり少なく、日照時間は東・西日本でかなり多くなった。西日本太平洋側の降水量の平年比は56%と最も少ない記録を、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側の日照時間の平年比はそれぞれ121%、118%、122%と最も多い記録を更新した（いずれも1946年の統計開始以来）。一方、北日本日本海側では寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨または雪の日が多く、春の日照時間はかなり少なかった。また、北海道では、3月上旬に発達した低気圧の影響で暴風雪に見舞われた。

夏は、太平洋高気圧の勢力が日本の南海上から西日本にかけて強く、また、北日本まで暖かい空気が流れ込んだため、全国的に高温となり、特に西日本では平均気温の平年差が+1.2℃と1946年の統計開始以来の最も高い記録を更新した。また、江川崎（高知県四万十市）で日最高気温が歴代全国1位となる41.0℃を記録するなど、アメダスも含めた125地点で日最高気温の高い記録を更新した。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が続いたため、顕著な少雨多照の夏となった。また、東日本太平洋側でも夏の降水量はかなり少なかった。一方で、梅雨前線や太平洋高気圧の縁を回る湿った気流の影響で、日本海側ではたびたび大雨に見舞われ、東日本日本海側や東北日本海側の夏の降水量はかなり多かった。特に、7月28日は山口県と島根県で、8月9

日は秋田県と岩手県で、8月24日は島根県で記録的な豪雨となった。

秋は、9月中旬から11月上旬にかけて、偏西風が平年より北側を流れた影響で日本付近への寒気の南下が弱かったため、北日本から西日本にかけて気温の高い状態が続いた。11月中旬以降は、強い寒気が流れ込み、北日本を除いて気温の低い日が多かった。9月から10月にかけては、全国的に台風や秋雨前線の影響でたびたび大雨に見舞われたほか、11月には低気圧や寒気の影響で日本海側では雨の日が多かった。このため、北・西日本と東日本日本海側の秋の降水量はかなり多く、降水量の平年比は北日本日本海側で135%、東日本日本海側で162%と1946年の統計開始以来最も多い記録を更新した。また、秋に日本へ接近した台風の数も9個となり、1951年以降では1966年と並んで最も多く、9月中旬に上陸した台風第18号の影響により福井県、滋賀県、京都府で、10月中旬に接近した台風第26号の影響により大島（東京都）で記録的な豪雨となった。一方で、東・西日本と沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れた日も多く、日照時間は多かった。

2 気温、降水量、日照時間の気候統計値

(1) 平均気温

年平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美で高かった。北日本は平年並だった。

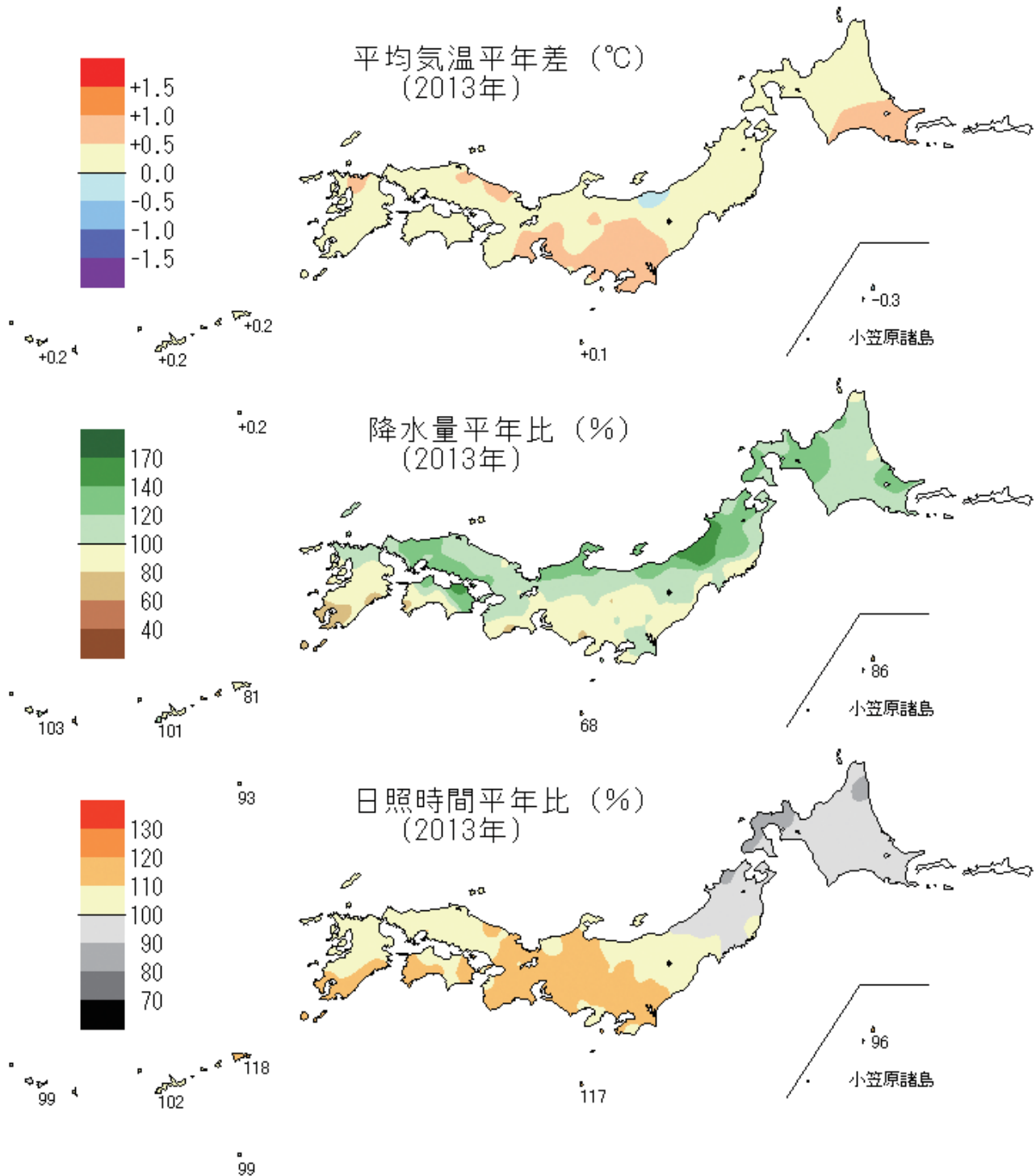
(2) 降水量

年降水量は、北・東日本日本海側ではかなり多く、北日本太平洋側で多かった。新庄、酒田（以上、山形県）では、年降水量の多い方からの1位を更新した。一方、沖縄・奄美では少なかった。東日本太平洋側、西日本は平年並だった。

(3) 日照時間

年間日照時間は、東・西日本ではかなり多く、沖縄・奄美で多かった。熊谷（埼玉県）、甲府（山梨県）、大阪など13地点では、年間日照時間の多い方からの1位を更新した。一方、北日本では少なかった。

平年差(比)図(2013年)



※詳細については気象庁HPをご参照ください。

2013年（平成25年）の世界と日本の 年平均気温（速報）

気象庁 HP より抜粋

世界の年平均気温

2013年の世界の年平均気温偏差（1981～2010年の30年平均値を基準値とし、平均気温から基準値を差し引いた値）は+0.20℃で、統計を開始した1891年以降では2番目に高い値となる見込みです。世界の年平均気温は、長期的には100年あたり0.69℃の割合で上昇しており、特に1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっています（図-1）。

月別、季節別では、9月と11月の世界の平均気温偏差（それぞれ+0.26℃、+0.31℃）、及び9月～11月（北半球における秋季）の世界の平均気温偏差（+0.26℃）は、統計を開始した1891年以降で第1位の高い記録でした。また、地域別では、ユーラシア大陸やオーストラリアで広く高温偏差となったほか、海域では北太平洋中央部で高温、太平洋赤道域で低温偏差となる特徴が見られました（図-2）。

なお、陸域のみの年平均気温偏差は+0.35℃で、1891年以降では4番目に高い値となる見込みです。

日本の年平均気温

2013年の日本の年平均気温偏差^{*}は+0.40℃で、統計を開始した1898年以降では8番目に高い値となる見込みです。日本の年平均気温は、長期的には100年あたり1.15℃の割合で上昇しており、特に1990年代以降、高温となる年が頻出しています（図-3）。

年平均気温の変動の要因

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響に、数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったも

のと考えられます。

2013年の年平均気温の確定値は、日本については2014年1月初め、世界については2014年2月初めにホームページで発表します。また、年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温は気象庁ホームページにて随時更新・掲載しています。

(<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/index.html>)

※日本の平均気温の偏差の算出にあたっては、長期間にわたる気温観測データが存在し、都市化による影響が少なく、特定の地域に偏らないように選定した地点の気象台等の観測値を採用しています。2013年12月24日から、これらの地点を一部変更して15地点（網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島）とし、過去に遡って日本の平均気温の偏差を再計算しています。

表 世界と日本の年平均気温の順位（上位10位まで）

世 界			日 本		
順位	年	気温偏差(℃)	順位	年	気温偏差(℃)
1	1998	+0.22	1	1990	+0.78
2	2013	+0.20	2	2004	+0.77
3	2010	+0.19	3	1998	+0.75
4	2005	+0.17	4	2010	+0.61
5	2009	+0.16		2007	+0.61
	2002	+0.16	6	1994	+0.56
7	2006	+0.15	7	1999	+0.49
	2003	+0.15	8	2013	+0.40
9	2012	+0.14	9	2009	+0.30
10	2007	+0.12	10	2002	+0.29
	2004	+0.12			
	2001	+0.12			

※上記の2013年の世界及び日本の年平均気温の気温偏差は、1月から11月までの月平均気温の偏差をもとに算出した速報値です。

※2013年の年平均気温の確定値は、2014年2月初めに公表しますが、速報値とは順位、値ともに変わることがあります。

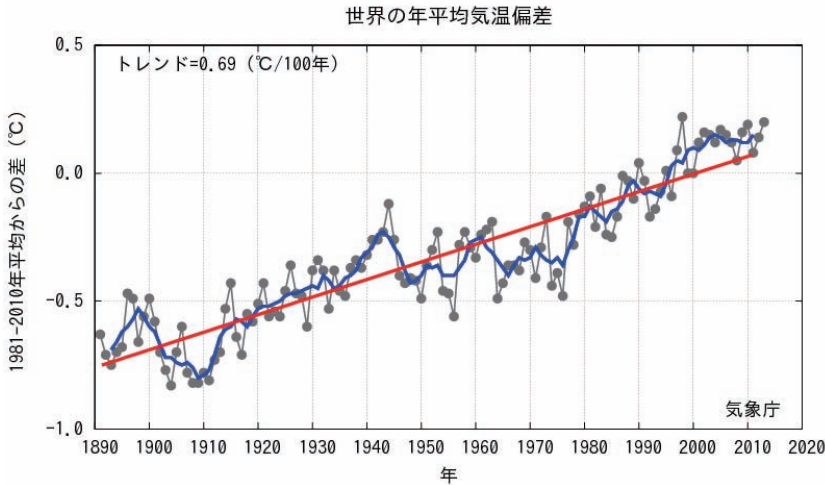
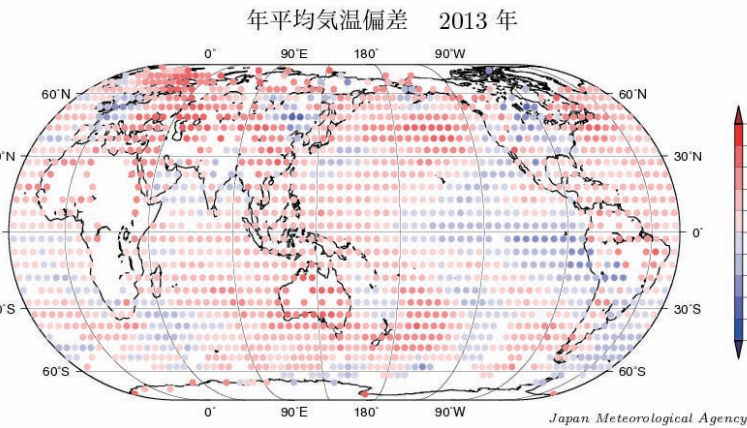


図-1 世界の年平均気温偏差の経年変化 (1891~2013年)

黒線は各年の値、青線は各年の値の5年移動平均、赤線は長期変化傾向を示す。ただし、2013年は1月~11月の期間から算出した値(速報値)を用いている。



図中の丸印は、5°×5°格子で平均した1981-2010年からの偏差を示す。

図-2 2013年の年平均気温偏差の分布図

各観測点の偏差(1月から11月の期間から算出した値)を緯度、経度5度の領域ごと平均した値で示す。なお、1891年以降の各月の月平均気温偏差および各年の年平均気温偏差の分布図を次のページに掲載している。

http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/map/temp_map.html

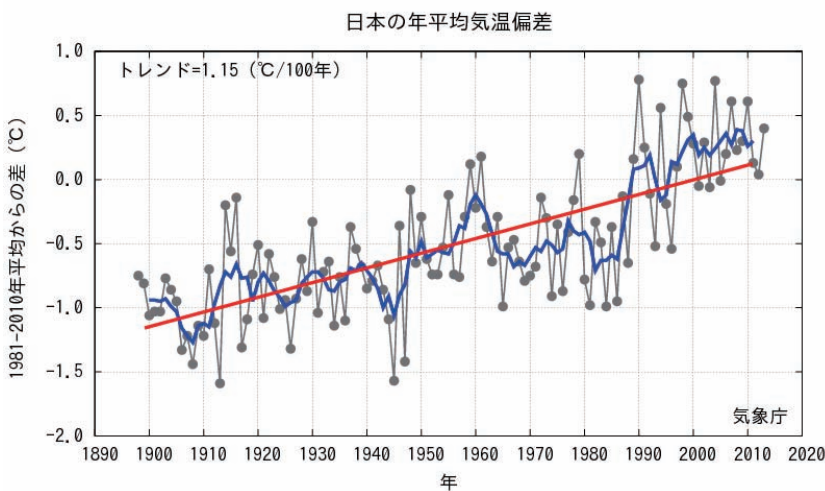


図-3 日本の年平均気温偏差の経年変化 (1898~2013年)

黒線は各年の値、青線は各年の値の5年移動平均、赤線は長期変化傾向を示す。ただし、2013年は1月~11月の期間から算出した値(速報値)を用いている。

※詳細については気象庁HPをご参照ください。

「第29回防災ポスターコンクール」 審査結果と表彰式について

～ 応募作品12,139点の中から「防災担当大臣賞」等を表彰 ～

内閣府（防災担当）HP より抜粋

内閣府では、国民の皆さま一人ひとりに防災意識を高めてもらい、「日頃からの災害への備え」を実践することによって「安全で安心して暮らしてゆける社会」をつくる取り組みを進めており、その一環として、毎年度、防災推進協議会との共催で「防災ポスターコンクール」を実施しています。

本年度は、「幼児・小学1年生の部」「小学2～4年生の部」「小学5・6年生の部」「中学生・高校生の部」「一般の部」の5部門について、昨年7月1日から10月31日までの期間に作品募集を行い、全国から12,139点の応募がありました。

これは過去29回のコンクールにおいて、3番目に多い応募点数であり、第23回以来の1万点越えです。

これらの作品について審査を行い、「防災担当大臣賞」、「防災推進協議会会長賞」、「佳作」及び「入選」作品を選出したところです（別紙参照）。

このうち、「防災担当大臣賞」、「防災推進協議会会長賞」を受賞した方々に対して、下記のとおり古屋防災担当大臣、近衛防災推進協議会会長（日本赤十字社社長）より表彰を行いましたのでお知らせします。

記

1. 日 時：平成26年1月16日（木）12：30～
2. 場 所：内閣府（防災担当）特別会議室
〔東京都千代田区霞が関1-2-2〕
〔中央合同庁舎第5号館3階〕
3. 表彰対象者：「防災担当大臣賞」受賞者及び
「防災推進協議会会長賞」受賞者

別紙

1. 各賞受者

■防災担当大臣賞（5作品）

- 幼児・小学1年生の部
白石 煌惶（愛知県 だれでもアーティストクラブ 小学1年）
- 小学2～4年生の部
前田 雪乃（徳島県 アトリエ遠渡（高木教室） 小学3年）
- 小学5・6年生の部
結城 遥（宮城県 美里町立青生小学校6年）
- 中学生・高校生の部
鈴木 愛里（山形県 山形明正高等学校2年）
- 一般の部
金子 昌和（愛知県 個人）

■防災推進協議会会長賞（5作品）

- 幼児・小学1年生の部
新美 優月（愛知県 だれでもアーティストクラブ 年長）
- 小学2～4年生の部
齊藤 綾乃（宮城県 美里町立不動堂小学校4年）
- 小学5・6年生の部
友田 恵輔（静岡県 牧之原市立相良小学校6年）
- 中学生・高校生の部
大西 研介（三重県 四日市市立朝明中学校2年）
- 一般の部
岩田 三郎（大阪府 個人）

■佳作（19作品）

- 幼児・小学1年生の部
光岡 倅汰（愛知県 慶和幼稚園 年長）
河合 璃香（愛知県 ともだち絵の会 小学1年）

○小学2～4年生の部

中島 和輝 (愛知県 だれでもアーティストクラブ 小学2年)

和田 健跳 (愛媛県 絵画教室本多 小学2年)

堀内 志穂 (東京都 光塩女子学院初等科4年)

○小学5・6年生の部

石黒 巨望 (愛知県 だれでもアーティストクラブ 小学5年)

櫻井 凜 (宮城県 美里町立不動堂小学校6年)

増田 愛琴 (埼玉県 さいたま市立指扇小学校6年)

山田 望未 (愛媛県 愛媛大学教育学部附属小学校6年)

○中学生・高校生の部

今井菜々美 (愛知県 一宮市立中部中学校1年)

加藤 活代 (宮城県 古川黎明中学校2年)

高倉 玲衣 (福島県 須賀川市立第三中学校2年)

細見 夏未 (東京都 大田区立大森第六中学校2年)

中村 有希 (愛知県 豊橋市立中部中学校2年)

井上 実香 (愛知県 ともだち絵の会 中学2年)

藤本 遥香 (石川県 白山市立笠間中学校3年)

森 真里奈 (愛知県 西尾市立西尾中学校3年)

水田 拓実 (奈良県 橿原学院高等学校2年)

○一般の部

戸田 夏葉 (新潟県 新潟デザイン専門学校1年)

■入選 (201作品)

2. 作品の活用

「防災担当大臣賞」、「防災推進協議会会長賞」、「佳作」の29作品については、平成26年1月17日から東京臨海広域防災公園防災体験学習施設「そなエリア東京」にて展示を行います。

また、「防災白書」の表紙や「防災週間」、「防災ポスターコンクール」等の防災施策の周知ポスターやパンフレット等に活用するほか、百貨店等への展示、地方自治体や民間の広報誌等における作品の使用許可等を通じて、防災意識の高揚及び防災知識の普及を図る取組に活用してまいります。

【平成25年度の活用例】

- ・ 防災週間の周知ポスター(沖縄電力)
- ・ 子ども発達センター業務概要の表紙(佐世保市)
- ・ 岩手、宮城、福島百貨店への展示など

3. 審査経過

① 予備審査 平成25年11月30日(土)実施
応募作品12,139点から入選作品を選出(審査員)

宇野 義行 東京都立大泉桜高等学校 教諭

佐藤真理子 大田区立南六郷中学校 教諭

清水 満久 昭和女子大学人間社会学部 教授

竹内とも子 千代田区立九段小学校 教諭

永関 和雄 町田市立町田第三中学校 校長

中森 千穂 大田区立千鳥小学校 教諭

② 本審査 平成25年12月3日(火)実施

予備審査を通過した230点から「佳作」以上の作品を選出

(審査員)

池上三喜子 公益財団法人市民防災研究所理事・特別研究員

岸 ユキ タレント・画家

長谷川ゆか 画家・デザイナー

藤吉洋一郎 元大妻女子大学教授・元NHK解説委員

西島 秀一 日本赤十字社救護・福祉部長

佐々木克樹 内閣府大臣官房審議官

4. 応募状況

部 門	応 募 作品数	入選作品数	
		点	うち入賞作品数
◇幼児・小学1年生の部	点 664	16	大臣賞 1点 会長賞 1点
◇小学2～4年生の部	1,883	40	大臣賞 1点 会長賞 1点
◇小学5・6年生の部	2,965	57	大臣賞 1点 会長賞 1点
◇中学生・高校生の部	6,187	105	佳 作 19点
○中学生	5,361	93	
○高校生	826	12	
◇一般の部	440	12	大臣賞 1点 会長賞 1点
合 計	12,139	230	防災担当大臣賞 5点 推進協議会会長賞 5点 佳作 19点 (入選 201点)

※入賞作品等の詳細については内閣府 HP「防災ポスターコンクール」をご参照ください。

《各県コーナー》

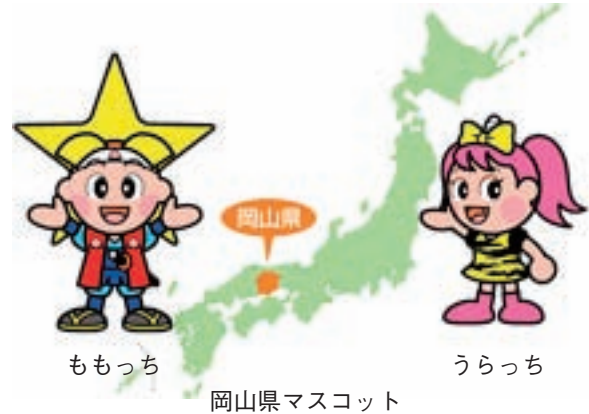
岡山県における平成25年災害について

.....岡山県土木部防災砂防課防災班

1 岡山県について

岡山県は、鳥取県、島根県、広島県、山口県とともに中国地方に属し、東は兵庫県、西は広島県、北は山陰地方、南は瀬戸内海を臨んで四国に接し、中四国地方の交通の要衝として古くから重要な位置にあります。県内は縦横に延びる高速道路網、国内外へ飛び立つ岡山空港、新幹線をはじめとする東西南北につながる鉄道網など、全国まれにみるほど交通基盤が充実し、中四国のクロスポイントとして着実に発展を続けています。平成21年4月には、県都である岡山市が全国で18番目となる政令指定都市になりました。

また、県北部は四季折々の姿を見せる中国山地、南部は美しく彩られた瀬戸内海といった自然環境に恵まれています。そして、温暖な気候を生かした質の高い農業が営まれており、マスカットや白桃をはじめとし、豊富な果物が特産となっています。

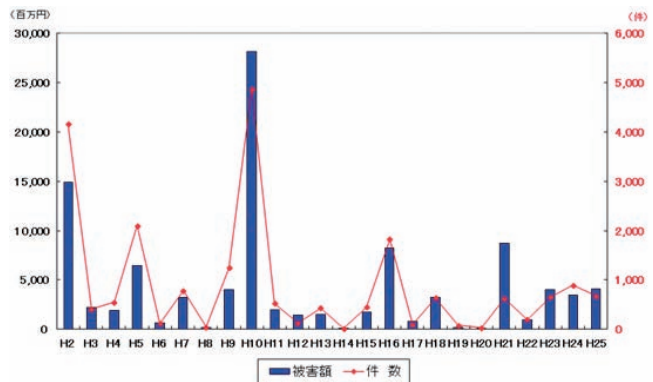


2 気象概況

岡山県は、晴れの日が多く、温暖な気候であることから、県のトータルイメージとして「晴れの国おかやま」というフレーズが使われています。

<参考データ>

- ・降水量 1 mm未満の日：276日 <全国第 1 位>
 - ・日照時間の長さ : 2,030時間 <全国第14位>
 - ・降水量 : 1,105mm (少ないほうから) <全国第 3 位>
- (気象庁「全国気候表 (S 56～H 22年の平均値))



岡山県の災害発生状況

《各県コーナー》

しかしながら、イメージとは逆に毎年約500件程度の被害が発生しています。また、数年に一度は甚大な災害が発生しており、平成以降、県内に甚大な被害をもたらした異常気象は、下記のとおりです。

- ①「平成2年台風19号」
- ②「平成10年台風10号」
- ③「平成16年台風16号、23号、梅雨前線」
- ④「平成21年台風9号」

この内、②「平成10年台風10号」では、県北部にある津山雨量観測所において52mm/hr、210mm/24hrを観測するなど、記録的な集中豪雨となり、「吉井川河川激甚災害対策特別緊急事業」及び「皿川河川災害復旧助成事業」が採択されました。また、④「平成21年台風9号」による災害では、県北東部にある江見雨量観測所において、59mm/hr、243mm/24hrの非常に激しい降雨を観測し、(一)山家川流域に甚大な被害が発生し、「山家川災害復旧助成事業」が採択されました。

3 平成25年災害発生状況について

平成25年の岡山県の主な災害は、「7月15日豪雨(気象コード:13185)」及び「9月3日から4日豪雨(気象コード:13280)」により発生しました。これらの災害について紹介させていただきます。

・7月15日豪雨

上空の寒気と南からの暖かく湿った気流の影響で大気の状態が非常に不安定となり、県北部を中心に活発な積乱雲が発達しました。

この積乱雲による豪雨により、本県では15日7時53分に注意体制をとり、その後9時8分に警戒体制へと移行しました。

解析雨量では県北部の真庭市奥田観測所で午前10時までの1時間に70mm、最大24時間雨量219mmの猛烈な雨となりました。

体制配備中に7市町村で土砂災害警戒情報が発表されました。



真庭で記録的豪雨
(21面に関連記事)

暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で西日本を中心に大気の状態が不安定となり、岡山県内は15日、各地で猛烈な雨に見舞われた。気象レーダーの解析によると、真庭市は午前9時から1時間、約100mmの豪雨に襲われ、岡山地方気象台は県全域に「記録的短時間大雨情報」を発表。同市北西を東西に走る国道487号では、崩れの山から大量の土砂が流出し、傘大を上回る石もとも路面を覆った。15日午後3時3分、真庭市津山(上)徳山

【平成25年7月16日 山陽新聞】

・9月3日から4日豪雨

9月1日から4日にかけて前線が西日本に停滞しました。一方、台風17号から変わった温帯低気圧の影響で、前線に向かって南から暖かく湿った空気が流入しました。このため、大気の状態が非常に不安定となり、県内各地で激しい雨が断続的に降り、大雨となりました。本県では、1日15時49分に注意体制をとり、3日10時20分から警戒体制、4日7時20分から特別警戒体制をとり、県内全ての地域で大雨・洪水警報が発表されました。

この雨により、河川の防災情報としては、洪水予報(氾濫危険情報)、避難判断水位情報、水防警報が多数の河川で発表され、土砂災害警戒情報については、全市町村において発表されました。



【平成25年9月5日 山陽新聞】

《各県コーナー》

[24時間最大雨量]



9月3日から4日の24時間最大雨量

180件、市町村284件の合計464件で、この内、県災51件、市町村災178件の合計229件（49%）が県西部の高梁市内での災害でした。



9月3日から4日豪雨
砂防指定地 尾頃川（岡山県高梁市）

4 被災状況

・ 7月15日豪雨

7月15日豪雨による被害件数は、県74件、市町村73件の合計147件となりました。この内、県災では74件全て、市町村災では66件の合計140件（95%）が県北部の真庭市内での災害でした。

・ 9月3日から4日豪雨

9月3日から4日豪雨による被害件数は、県

平成25年災 発生状況一覧

	県 工 事		市町村工事		合 計	
	(件)	(千円)	(件)	(千円)	(件)	(千円)
1次査定	0	0	20	79,860	20	79,860
2次査定	74	714,770	73	403,169	147	1,117,939
3次査定	12	66,554	31	110,019	43	176,573
4次査定	180	1,464,330	285	1,225,140	465	2,689,470
4次査定 (公園災)	1	49,453	3	27,355	4	76,808
全 体	267	2,295,107	412	1,845,543	679	4,140,650



7月15日豪雨
国道482号（岡山県真庭市）

5 主な被害箇所

・ 7月15日豪雨

7月15日豪雨では、岡山県と鳥取県を結ぶ主要な道路である国道482号が法面崩壊により全面通行止めとなりました。本県では、鳥取県及び西日本高速道路株式会社ご協力のもと、国道482号と並行する米子自動車道の一部区間を無料開放することで応急的に迂回路として使用しました。国道については早急に応急工事を実施し8月7日に通行止めを解除しました。

《各県コーナー》

特に9月3日から4日豪雨による災害は被害が全県下に及びかつその中でも特に高梁地域に被害が集中していたこともあり、査定設計書の作成や査定行程がかなり厳しいものではありませんでしたが、関係職員及び市町村のご協力のもと、無事期間内に全件査定を受けることができました。

災害査定時には全ての査定班、検査班を一堂に会して概要説明を行うべきところではありますが、水管理・国土保全局班のみ県庁にて概要説明を行い、整備局班については現地へ直行していただきました。被害が全県下に及び、現場間の移動に時間を要したことから、直接現地へ向かっていただくことで査定効率を上げることができました。

また、随行員を本随行と副随行の2名体制としました。これにより、本随行は災害査定業務に専念することができ、また、副随行は災害経験の少ない若手職員を中心とし、災害復旧事業の見識を深め、今後の技術力向上に繋がる良い経験となりました。

7 おわりに

平成25年発生災害は、679件・4,141百万円であり、平成24年発生災害の889件・3,484百万円の被害と比較して、金額では上回りましたが、件数は下回り、比較的1箇所あたりの被害が大きかった状況でした。その中でも7月15日豪雨（第2次査定）及び9月3日から4日豪雨（第4次査定）では特に限られた地域に災害が集中したこともあり、担当職員、測量設計コンサルタント、工事関係者の皆様方には多大なご苦勞をお掛けしたと思います。また、事前打ち合わせから災害査定まで、国土交通省、財務省の方々におかれましては多岐にわたるご指導とご協力を賜りありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後も災害が発生することが予想されますが、県民の安全安心のため、より一層迅速な災害復旧事業に邁進していきたいと考えておりますので、皆様方には今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



第4次査定対象地域

防災課だより

人 事 異 動

〔水管理・国土保全局関係人事発令〕

△平成25年12月31日

氏 名	新 所 属	備 考
高辻 安見	退職	防災課総務係
西村 浩一	辞職（日本下水道事業団経営企画部経営企画課長代理）	総務課付（東北地方整備局河川部水政課長）

△平成26年1月1日

水落 雅彦	退職	防災課業務継続計画評価分析官
金子 純二	退職	治水課長補佐
上田隆一郎	東北地方整備局河川部水政課長	総務課総務係長
麓 裕樹	九州地方整備局建政部長（併）九州地方整備局建設業法令遵守推進本部副本部長	水政課水利調整室長
西口 学	水政課水利調整室長	九州地方整備局広報広聴対策官
今村 能之	大臣官房付	復帰（アメリカ合衆国）
宮本 圭輔	河川環境課総務係長	水政課水利調整室水利調整係長
津島 存佐	総務課総務係長	河川環境課総務係長

△平成26年1月6日

近藤 修	派遣（フィリピン共和国）	大臣官房付
------	--------------	-------

お知らせ

平成26年度災害復旧実務講習会 日程決まる

1. 期 日 平成26年 5 月14日(水)
 〃 15日(木)

2. 会 場 砂防会館 別館（シェーンバッハ・サボー）

なお、詳細については、後日お知らせ致します。

会員だより

「災害復旧に携わって ～(三重県の紹介)～」

三重県県土整備部
施設災害対策課 主査
細 渕 敏 史



施設災害対策課の職員（左から 2 番目が筆者）

1. はじめに

東日本大震災から 2 年半以上経過し、もう少しすると 3 年が経とうとしています。地震・津波により大きな被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。また、我が県をはじめ日本は、地形、気象等の自然条件が厳しいため、毎年のように豪雨や台風により、洪水が発生しております。今年も、台風 18 号、台風 26 号などにより、激甚な被害が発生しました。早期の復旧、復興に向け日夜間わず、ご尽力されている関係者に心より敬意を表します。

2. 自己紹介

私は平成 7 年に入庁して、今年度で 19 年目を終えようとしています。現在の職場、県土整備部施設災害対策課で災害事業に携わり始めたのは、昨年 4 月からでもうすぐ 1 年目を終えようとしています。実は、災害復旧事業の現場経験は、入庁 3 年目に 2 箇所の道路災害を経験したぐらいで、災害担当として異動当初は多くの戸惑いがありました。しかし、庁内の先輩や同僚など経験豊富な人材に囲まれていることもあり、支えられながら今日まで業務に取り組んでまいりました。

3. 施設災害対策課職員の紹介

私の所属する施設災害対策課は、課長を含め 8 名体制となっており、課長 1 名、課長補佐 1 名、水防業務 2 名、災害復旧業務 2 名、事務業務 1 名、業務補助 1 名で業務を分担しています。

はじめに、課を統括している課長です。経験豊

富な職歴と、精通したパソコンの取り扱いで、課をマネジメントしてくれており、頼れる課長です。

次に、水防・災害等を統括して、対外的な問題も冷静な切り口からズバズバこなしてしまう補佐です。私と同じく 4 月に着任してから、2 人で本省協議に行く際には、協議資料の作成時、協議中、協議後の地方機関への対応等で多くの助言をマンツーマンでしていただきます。少し、持ち上げすぎ感はありますが、なくてはならない存在でした。

こうしたお二人と、同僚 5 名で毎日災害が起こらないことを願いながら、業務を行っていましたが、9 月に災害が発生した後は、再度災害の防止と早期の復旧を実現するため、皆が奔走していました。本省の担当者の方にも、大変ご迷惑をおかけし、全国的に災害が発生し協議が集中している中でも、時間を割いて夜遅くまで協議をしていただきました。結果、幹線道路等で早期の工事着手と現地の早期復旧がかない、速やかに交通解放がなされました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

平成 25 年の主な被害の状況と応急対応状況

○二次災害防止のため、速やかに河川や道路等の応急工事を実施しました。

会員だより

国道422号(伊賀市)【道路崩壊】

川のはん濫状況



道路の崩壊状況



仮復旧の状況



国道163号(伊賀市)【道路崩壊】

道路の崩壊状況



復旧作業の状況



復旧の状況



会 員 だ よ り

4. 三重県の紹介

三重県は日本のほぼ中央に位置し、紅葉狩りや登山、スキーもできる山岳から、風光明媚なリアス式海岸が続くなど、豊かな自然に恵まれています。また、日本有数のアミューズメントスポット（鈴鹿サーキット、長島スパワールド等）も存在します。

さらに、伊勢エビ、あわび、牡蠣、ふぐなどの魚介類の宝庫としても知られています。この他、高級霜降り和牛で有名な松阪牛の産地でもあります。

そして、日本人の心のふるさととして親しまれる伊勢神宮や、世界遺産の熊野古道を有しています。このほか、俳聖松尾芭蕉や国学者本居宣長の生誕地、さらには伊賀流忍者の発祥地でもあります。



遊園地「ナガシマスパワールド」



鈴鹿サーキット



豊かな自然「御在所岳」



F1 日本グランプリや 8 耐が開催される「鈴鹿サーキット」



太平洋沿岸の「リアス式海岸」



日本有数の工業地帯「四日市コンビナート」

会員だより



海女小屋体験



新鮮な魚介類「牡蠣」



霜降り肉の芸術品「松阪牛」



三重県観光キャンペーン ～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～
2013.4～2016.3

<http://www.kankomie.or.jp/> 参照



日本人の心のふるさと「伊勢神宮」



夫婦岩（伊勢市）・・・夫婦岩の間から昇る日の出や満月は必見。



日本有数の内堀「伊賀上野城」



「伊賀」は伊賀流忍者発祥の地

会 員 だ よ り



世界遺産の「熊野古道」



熊野大花火



あまご料理

5. 災害対応力アップに向けた取り組み

<人財育成>

- ・全国防災協会主催の「災害復旧実務講習会」への参加
- ・三重県建設技術センター主催の県内市町職員の技術の向上を目的とした技術研修会の開催（県庁担当者は、講師として参加）
- ・県庁職員の技術の向上を目的とした技術研修会の開催（県庁担当者は、講師として参加）。中級者向け、上級者向けとして、計5回開催

<災害時の対応強化>

東日本大震災での津波被害や、県内での紀伊半島大水害の経験を受けて、大規模地震・津波が発生した際に、孤立が懸念される沿岸部の地域において、「道路啓開」（緊急車両等が通れるように、がれきなどを処理し、段差を修正するなど、救援ルートとして最優先で確保すること）を迅速に展開できる態勢の整備を昨年度から進めています。整備の中でも核となるのが「道路啓開基地」で、昨年10月に第1号基地が完成したところです。

さらには、有事の際、作業に当たる建設企業が担当する作業範囲を明示した道路啓開マップの作成や、巨大地震を想定した道路啓開訓練の実施も行っています。

6. おわりに

昨年4月に現在の職場に来てからもうすぐ1年になろうとしています。この1年を振り返ると、大変多くのことを学びながらの業務でした。多くの人に支えていただきながら現職場で1年、入庁後19年を過ごさせていただきました。今後も、三重県が繁栄し、災害が発生しても滞りなく復旧事業が進捗して、早期に復旧できることを願います。

平成25年 発生主要異常気象別被害報告

平成26年1月15日現在 (単位: 千円)

	冬期風浪及び風浪		豪雨		地すべり		融雪		地震		梅雨前線豪雨		台風		その他		合計	
	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額
北海道	4	2,720,000	92	1,352,800	2	160,000	3	210,000			(1)	(20,000)	(2)	(20,000)	22	466,800	(1)	(36,500)
青森			65	437,700							1	20,000	414	4,840,200			(2)	(20,000)
岩手			(10)	(109,755)							417	2,936,107	479	6,107,530			(3)	(429,000)
宮城			402	6,796,815									16	164,650	1	6,000	(10)	(109,755)
秋田			(7)	(74,000)							99	709,500	136	1,607,000			(1)	(89,000)
山形			249	3,629,500	1	20,000					199	3,689,050	1	50,000	2	110,000	(8)	(89,000)
福島			400	6,588,800							113	1,654,000	85	837,110			(1)	(36,500)
茨城			231	2,373,100									<10>	<2,183,000>			<2>	(20,000)
栃木													51	2,871,600			(1)	(89,000)
群馬			8	111,800									19	111,686			(1)	(89,000)
埼玉			1	145,500									58	1,432,800			(1)	(36,500)
千葉													2	37,000	(1)	(62,867)	(1)	(62,867)
東京													(10)	(136,731)			(10)	(136,731)
神奈川			4	54,000									413	6,020,642			(1)	(89,000)
新潟	2	180,000	5	28,000	7	725,000							<2>	<250,000>			<2>	(20,000)
富山													15	1,054,000				
石川			37	380,000									2	81,000			<4>	(29,400)
福井			(1)	(18,000)									<4>	<29,400>	(1)	(5,800)	(1)	(5,800)
山梨			124	925,800									318	3,932,500				
長野			37	380,000									262	5,703,500				
岐阜			(3)	<260,000>														
愛知			12	179,100														
三重			28	246,000	4	420,000												
滋賀																		
京都			68	714,009														
大阪			46	1,039,500	1	400,000												
兵庫			9	130,000														
奈良			9	137,000														
和歌山			9	137,000														
鳥取			6	114,000														
島根			35	190,500														
岡山			237	2,034,100	1	80,000												
広島			4	14,012	2	210,000												
山口			3	13,500	5	892,000												
徳島			(3)	(52,000)														
香川			152	2,131,247														
愛媛			<1>	<6,000>														
高知			(10)	(138,000)														
福岡			(4)	(80,828)														
佐賀			665	4,156,707	2	26,360												
長崎			206	1,278,600														
熊本			(1)	(400,000)														
大分			794	17,328,200														
宮崎			34	232,200														
鹿児島			28	147,200														
沖縄																		
札幌																		
仙台																		
さいたま																		
千葉																		
横浜																		
川崎																		
横浜																		
相模原																		
新潟																		
静岡																		
浜松																		
名古屋																		
京都																		
大阪																		
大塚																		
神戸																		
岡山																		
広島																		
北九州																		
福岡																		
熊本																		
鹿児島																		
沖縄																		
補助計	<3>	<260,000>	<1>	<6,000>														
直轄計	14	3,756,000	6,636	78,205,517	34	3,713,360	3	210,000										
合計	16	4,003,000	6,656	81,470,297	34	3,713,360	3	210,000										

※上段 () 内書きは、下水道・公園分、< >内書きは港湾・港湾に係る海岸分である。